

高等学校 令和5年度（5学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：1 単位

対象学年組：第5学年 A組～D組

使用教科書：（公共（東京書籍））

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる国民主権を担う公民として、自衛を重し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
7月・9月 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 1. 人間とは何か 2. さまざまな人間の心のあり方 3. 自立して生きる主体の形成 ・青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をともに、様々な人間の心のあり方を理解する。	第1章 人間の心と自己形成 1. 青年期の課題と自己形成 2. 人間とは何か 2. さまざまな人間の心のあり方 3. 自立して生きる主体の形成	【知識・技能】 ・人間の特質とは何かを理解している。 ・人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するかに関して、心の仕組みと成り立ちを理解している。 【思考・判断】 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。 ・様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を読み取ったり、対話や作文などを通して学習を深めたりしている。	○	○	○	6
第2章 人間の存在や価値と宗教 ・古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。	1. ギリシアの思想 1. 哲学の形成 2. 哲学の確立 3. ギリシア思想の展開	【知識・技能】 ・古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察している。 ・「ソクラテスのことば」から、「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ソクラテスの言行やプラトン、アリストレスの思想、ヘレニズムの思想から、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
10月 2 ユダヤ教とキリスト教 ・キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 3 イスラーム ・イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 4 仏教 ・仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 5 中国の思想 ・儒教などの中国の思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 6 宗教や芸術 人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。	1. ユダヤ教の世界 2. イエス 3. キリスト教の発展 1. イスラーム 2. 仏教の誕生と展開 インドの思想文化 1. 仏教の誕生と展開 2. 儒家の思想 2. 儒家以外の諸流派 1. 宗教や芸術	【知識・技能】 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解している。 ・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解している。 ・インドの人々は、どのような死生観をもっているかを理解している。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解している。 ・中国の人々の自然観・人生観を理解している。 ・人生に関わる課題は、古今東西の宗教や芸術によって探究されてきた課題でもあり、その解決のために宗教や芸術が誕生してきたことを理解している。 ・人生に関わる課題は、古今東西の宗教や芸術によって探究されてきた課題でもあり、その解決のために宗教や芸術が誕生してきたことを理解している。 【思考・判断・表現】 ・日本になじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察している。 ・仁や礼の言説を取り上げ、人間についての見方や、望ましい人間関係を築きながらどのように社会生活を送るかについて、自己の課題と結び付けて思索を深めている。 ・芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・イエスの言行やパウロ、古代中世のキリスト教の思想から、人間をどのように捉え、どのように生きようとしているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。 ・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義（六信・五行）を実感している。 ・ムハンマドの言行などから、社会の中で人間がどのように生きようとしているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と結び付けて思索している。 ・仏教が人間をどのように捉えているか、どのように生きようとしているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。 ・芸術家が作品に込めた問いかけなどを、社会背景を踏まえて主体的に考えている。	○	○	○	6

<p>1 人間の尊厳 ・人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p> <p>2 科学革命の時代と自然観 ・人間は自然をどのように捉えてきたかを理解する。</p> <p>3 自由で平等な社会の実現 ・社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p> <p>4 人間性の回復と主体性の確立 ・社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、プラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p>	<p>1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 人間性の探究</p> <p>1. 科学革命の時代 2. 経験論と合理論</p> <p>1. 社会契約の思想 2. 人格の尊厳と自由 3. 人倫と自由の表現 4. 功利主義の思想 5. 実証主義と進化論</p> <p>1. 社会主義の思想 2. 実存主義の思想 3. プラグマティズムの思想</p>	<p>【知識・理解】 ・ルネサンス期の思想家やモラリストたちの思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを理解している。 ・近代の科学は、どのような背景から生まれたのかを理解している。 ・ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観を理解している。 ・社会契約説は、人間をどのように捉え、どのような社会を理想としたのかを理解している。 ・現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 ・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解している。 ・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。 ・実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解している。</p> <p>【思考・表現】 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 ・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。 ・主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 ・社会主義の変遷をもとに、自由で平等な社会について考察している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態】 ・ルネサンス期の絵画などから、ルネサンス期の人間観を、主体的に考えている。 ・ベーコンやデカルトの科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 ・略伝や原典資料を活用して、思想家の人生をたど</p>	○	○	○	12
<p>定期考査</p> <p>第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 1 人間の尊厳 ・人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p> <p>2 科学革命の時代と自然観 ・人間は自然をどのように捉えてきたかを理解する。</p> <p>3 自由で平等な社会の実現 ・社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p> <p>4 人間性の回復と主体性の確立 ・社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、プラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p>	<p>1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 人間性の探究</p> <p>1. 科学革命の時代 2. 経験論と合理論</p> <p>1. 社会契約の思想 2. 人格の尊厳と自由 3. 人倫と自由の表現 4. 功利主義の思想 5. 実証主義と進化論</p> <p>1. 社会主義の思想 2. 実存主義の思想 3. プラグマティズムの思想</p>	<p>【知識・理解】 ・ルネサンス期の思想家やモラリストたちの思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを理解している。 ・近代の科学は、どのような背景から生まれたのかを理解している。 ・ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観を理解している。 ・社会契約説は、人間をどのように捉え、どのような社会を理想としたのかを理解している。 ・現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 ・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解している。 ・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。 ・実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解している。</p> <p>【思考・表現】 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 ・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。 ・主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 ・社会主義の変遷をもとに、自由で平等な社会について考察している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態】 ・ルネサンス期の絵画などから、ルネサンス期の人間観を、主体的に考えている。 ・ベーコンやデカルトの科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 ・略伝や原典資料を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を主体的に学んでいる。</p>	○	○	○	18
<p>定期考査</p> <p>第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 1 現代の思想と人間像 ・現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。</p> <p>2 生命への畏敬と社会 ・社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解する。</p>	<p>1. 心の深層と無意識 2. 生の哲学と現象学 3. フランクフルト学派 4. 構造主義・言語哲学 5. 他者と偏見 6. 正義と社会</p> <p>1. 生命への畏敬とボランティア</p>	<p>【知識・技能】 ・生の哲学と現象学、構造主義・言語哲学など、現代思想の特徴を理解している。【思考・判断・表現】 ・実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本當の愛とはどのようなものかを理解している。【主体的に学習に取り組む態度】 ・ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。</p> <p>【知識・技能】 ・実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本當の愛とはどのようなものかを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・思想家のことばから、生涯をかけて自らの思想を实践した生き方をつかむ。</p>	○	○	○	9
<p>12月</p>			○	○		1

1月・2月	<p>第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>1 日本固有の思想</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の人間観, 自然観, 宗教観などと, 古来の日本人の心情と考え方との関係を理解する。 <p>2 外来思想の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の人間観, 自然観, 宗教観などと, 外来思想の受容との関係を理解する。 <p>3 町人思想のめざめと庶民思想</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の人間観, 自然観, 宗教観などと, 国学や江戸時代の庶民の思想との関係を理解する。 <p>4 西洋思想との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の人間観, 自然観, 宗教観などと, 西洋思想の受容との関係を理解する。 	<p>1. 日本の風土と伝統</p> <p>1. 日本仏教の展開</p> <p>2. 伝統思想の成熟</p> <p>3. 日本儒学の展開</p> <p>1. 国学の成立</p> <p>2. 庶民の思想</p> <p>1. 幕末の思想</p> <p>2. 明治の啓蒙思想</p> <p>3. 日本社会とキリスト教</p> <p>4. 近代的自我の確立</p> <p>5. 社会思想の展開</p> <p>6. 近代日本の思想課題</p>	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古来の日本人の心情と考え方は, 日本の風土で生活する中で育まれたことを理解している。 【思考・表現】 日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方, 望ましい対人関係を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古来の日本人の心情と考え方をもとに, 国際社会に生きる日本人としての人間観, 自然観, 宗教観などの特質について, 主体的に考えている。 日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ, どのように変容していったのか, その大きな流れを理解している。 ・自然, 教養, 一徳, 敬神, 道元, 日蓮に関する資料を収集し, 鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 【思考・表現】 日本人の価値意識と儒教との関連について理解し, 正の部分, 負の部分とともに検討する。 【主体的に取り組む態度】 外来思想の受容をもとに, 国際社会に生きる日本人としての人間観, 自然観, 宗教観などの特質について, 主体的に考えている。 【知識・理解】 国学が提唱した人間尊重の思想, 現代に流れる庶民思想は, どういうものかを理解している。 【思考・判断】 義理と人情, 徳と正直, 勤労の倫理など, 現代に流れる思想に対する興味・関心を高め, 日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかを考察している。 国学の思想と私たちの考え方とで, 共通するところ, 異なるところ, 共通するところなどを考察している。 【主体的に学習の望む態度】 国学や江戸時代の庶民の思想をもとに, 国際社会に生きる日本人としての人間観, 自然観, 宗教観などの特質について, 主体的に考えている。 【知識・理解】 幕末の思想の特質や, 文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたのかを理解している。 日本の近代思想がどのように展開していったのかを理解している。 【思考・判断】 日本人のものの見方・考え方の中で, 西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し, 国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方を考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本思想のまとめとして, 国際社会に生きる日本人として, これからの自分の生き方やあり方について主体的に考えている。 	○	○	○	15
定期考査				○	○		1
3月	<p>第2編 現代の諸課題と倫理</p> <p>第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理</p> <p>第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理</p>	<p>1 生命の問題と倫理課題</p> <p>2 地球環境の問題と倫理的課題</p> <p>3 科学技術の進展と倫理的課題</p> <p>1 福祉の向上と倫理的課題</p> <p>2 文化と宗教の影響と倫理的課題</p> <p>3 国際平和と倫理的課題</p>	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1編で学習した事項を基盤として, 現代の諸課題に関する概念や諸問題に着目して, 「生きること」の意義について多面的・多角的に考察し, 公正に判断するために必要な事項を理解している。 教科書記載の資料及びその他の資料から, 必要な情報を効果的に調べまとめている。 【思考・表現】 第1編で学習した事項を基盤として, 現代の諸課題に関する概念や諸問題に着目して, 「生きること」の意義について多面的・多角的に考察し, 公正に判断して構想し, 自分の考えを説明, 論述している。 理解したこと, 考察したことなどを, 論拠を明確にして表現している。 【主体的に取り組む態度】 教科書記載の探究課題や, 自ら設定した現代の諸課題に関する探究課題について, 他者との対話をふまえて自らの探究をふり返り調整しながら, 解決に向けて主体的に取り組んでいる。 	○	○	○	5